

審査の結果の要旨

氏名 古川賢臣

本研究は、自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder: ASD）や注意欠如・多動性障害（Attention-Deficit / Hyperactivity Disorder: ADHD）に注目し、コンサルテーション領域においても自閉症的特性（Autistic-like traits: ALTs）、ADHD 特性（ADHD-like traits）を強く呈する群が一定数存在することを明らかにするとともに、ALTs・ADHD-like traits と、精神症状・身体症状及び医療者のニーズ（主治医の苦慮、精神腫瘍科の介入行動）との関連要因を探索することを目的とした横断観察研究であり、以下の結果が得られた。

1. high ALTs・ADHD-like traits 群は、95 名中 24 例（25.3%）であった。
2. 抑うつ症状、不安症状、身体症状は、ALTs・ADHD-like traits と有意に相関していた。ALTs・ADHD-like traits のサブスケールと属性を独立変数とした多変量解析により、抑うつ症状では「不注意／記憶の問題」、「自己概念の問題」と、不安症状では「不注意／記憶の問題」、「喫煙」と、身体症状では「自己概念の問題」との関連がそれぞれ示された。
3. 主治医の苦慮、精神腫瘍科の介入行動は、ALTs・ADHD-like traits と有意に関連していた。ALTs・ADHD-like traits のサブスケールと属性を独立変数とした多変量解析により、主治医の苦慮は「不注意／記憶の問題」、「自閉的常同症」と、精神腫瘍科の介入行動は「コミュニケーション」、「細部へのこだわり」、「自閉的常同症」との関連がそれぞれ示された。
4. 対象群を high ASD・ADHD-like traits 群（24 名）と対照群（71 名）の二群に分けた解析では、属性のうち、婚姻での離婚・未婚率、飲酒量、適応障害の診断、向精神薬の使用が high ALTs・high ADHD-like traits 群で有意に高かった。

以上、本研究は、精神腫瘍科にコンサルト依頼のあったがん患者のうち、25.3%が high ALTs・high ADHD-like traits を呈することを示し、コンサルテーション領域でも、それなりの規模を持って現れていることを明らかにした、初めての報告である。また、ALTs・ADHD traits は、患者本人の抑うつ症状、不安症状、主治医の苦慮、精神腫瘍科の介入行動と有意に関連していることを示した。さらに、身体症状については、ALTs・ADHD traits が、臨床所見に比して症状をより強く感じさせたり、症状が遷延したりしやすいことに関連している可能性を示した。

これらの結果は、臨床腫瘍学のコンサルテーション領域において、これまで注目されてこなかった ALTs・ADHD-like traits に配慮した専門的対応、コンサルテーション体制を構築する必要性を明らかにしたという点で重要な貢献をなすものであり、学位の授与に値するものと考えられる。